

第208号

平成23年10月10日

病院だより



看護部 夏のイベント

Kiyomi Kusuta

楠田 清美

RSV感染症について

Hideo Hotta

堀田 英夫

医師事務作業補助の仕事

Chihiro Yamada

山田 千尋

国際親善総合病院

URL <http://shinzen.jp>

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045 (813) 0221 (代表)
FAX 045 (813) 7419 (庶務課)

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト





看護部 夏のイベント

看護部では、学生の夏休みを利用した、イベントが2つあります。それは、「高校生の一日看護体験」と「看護学生のインターンシップ」です。

「一日看護体験」は、地域の高校生を対象に開催し、病棟で看護師と共に血圧・脈拍測定や清拭、車椅子移送などの体験をしてもらいます。患者さんや病院職員との交流を通し、看護の仕事を学べる機会となっています。今年は、近隣の高校生10名の参加がありました。今年度は、当院の看護師による進路相談を設けたこともあり、「看護の大学や専門学校を目指し看護師になりたい」という頼もしい感想を全員が寄せてくれました。

もう一つのイベントである「インターンシップ」は、一般企業でも実施されていますが、“学生が在学中に自らの目指している職業体験を行う制度”です。当院では、1日または2日間コースで開催しています。研修プログラムは病院長や看護部長による病院紹介、各部署での看護体験を行い、集中治療室や救急外来・手術室なども見学し、学校の実習では経験できない貴重な体験ができることも好評です。病院としても職員の働く実際の姿や看護師の教育体制を紹介することができ、就職につながる良い機会となっています。今年は全国から35名の学生の参加があり、当院の職場環境や新人教育体制を知り、興味を持ってもらうことができました。

超高齢化社会の中で看護師不足は社会問題の一つといわれていますが、微力ながら看護師が少しでも多く誕生できることを願いながらこのような行事を続けていきたいと思っています。

看護部では、様々な行事をブログで紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

「親善ナース日記」

<http://ameblo.jp/shinzenurse/>



親善ナース美

看護部長 楠田 清美

RSV (RSウイルス: Respiratory Syncytial Virus) 感染症について

RSVは秋から春にかけて流行し、乳幼児の呼吸器感染症の重要な原因ウイルスです。大人や年長児が感染した場合は軽い風邪症状で治まりますが、乳幼児、特に乳児ではしばしば重篤な症状（肺炎・気管支炎・喘息様気管支炎・毛細気管支炎）となります。ウイルス感染症なので有効な治療薬はなく、対症療法で経過を診るほかありません。予定日より早く生まれた赤ちゃん（早産児）や、生まれつき心臓や呼吸器に病気がある赤ちゃんは特に気をつける必要があります。有効な治療薬がないため、かからないように予防することが重要となります。しかし現在では、遺伝子組み換え技術によりモノクロナール抗体がつくられ、赤ちゃんにあらかじめ注射することにより、ある程度予防することができます。つまり、抗体（ウイルスに対する抵抗力）を注射することで、抗原（RSウイルス）が体内で増殖するのを防ごうとするわけです。



RSVモノクロナール抗体注射の対象

- 29週未満で出生し、流行開始時期に生後12か月齢以下の赤ちゃん
- 36週未満で出生し、流行開始時期に生後6か月齢以下の赤ちゃん
- 気管支肺異形成や血行動態に異常のある先天性心疾患を有する、流行開始時期に生後24か月齢以下の赤ちゃん

以上に当てはまる赤ちゃんがいらっしゃるお父様、お母様は小児科外来に気軽にお声かけください。

医師事務作業補助の仕事

医師事務作業補助員とは、これまで医師が行っていた診断書などの文書作成、処方せんの作成、検査の予約などを医師の指示のもとで、医師に代わって行い勤務医師の負担軽減を図り診察に専念できる環境を整備するという目的で認められた職種です。

現在、当院では14名の医師事務作業補助員が勤務し、医師の事務作業を軽減するサポートを行っており、主に外来診察室に配置されています。

医師事務作業補助員の主な仕事内容・・・

- 診断書の作成
- 処方せんの作成
- 電子カルテ（診察記録）の入力
- 検査や処方などオーダー入力
- 診察に関するデータ整理



この仕事を始めて改めて医師は、診察、検査、入院患者さんへの対応、また救急外来での診察等もあり、本来業務である医療行為以外にも様々な業務を行っていることを知ることが出来ました。

私達が補助することで少しでも医師の負担が軽くなり患者さんと接し、医療行為に専念する時間がより多く取れることが出来るように貢献できればと思います。

そのためには、医師事務作業補助業務の従事者として必要な医療文書の作成、医学、薬学、医療に関する法律、法令等の知識と技能レベルの向上、また、自分が担当する科の専門分野についての知識についても広められるように努めて参りたいと思います。